

初期世界史教科書考

－「世界史」実施から検定教科書使用前後までの各種出版物に焦点を当てて－

茨木 智志

はじめに

本稿の課題は、「世界史」科目実施(1949年4月)前後から世界史検定教科書使用(1952年4月)前後までの時期において、高校の世界史授業に関わる教科書等の各種の出版物に対する考察を行うことにある。本稿は世界史教育の原点を解明する取り組みに位置付けられる。

現在の高校においては、「世界史」の授業のために教科書に加えて副教材が購入されることが通常である。また、授業用に写真やビデオ等の視聴覚教材も市販されている。具体的な授業では、板書を中心にプリントが作成されたり、各教師が用意した様々な教材が用いられたりしている。さらに受験用に参考書や問題集、用語集なども多く出版されている。

教科書は、戦後において検定教科書の使用が法的に義務付けられて、現在に至っている。敗戦から検定教科書発行までの時期には、国定教科書・文部省著作教科書、一種検定本も使用された。ただし、高校「世界史」の場合は、授業用の教科書として書かれた一般の出版物が存在した。これを、正式な意味での教科書でないが、教科書として使用されたという意味を込めて〈準教科書〉と呼ぶこととする(後述)。本稿の最大の課題は、対象とする時期における「世界史」の準教科書の実態解明にある。

1. 敗戦後の外国史・世界史教育の状況とその教科書

1-1. 戦後の外国史教育の状況とその教科書

中等教育では19世紀末から「東洋史」「西洋史」の教科書を使用した外国史教育が行われ、戦時中に至っていた。敗戦後も「国史」などとは異なり、外国史は「三教科停止指令」(「修身、日本歴史及び地理停止ニ関スル件」1945年12月31日)に含まれることなく、授業が継続された。

1946年度用に用意された外国史の暫定教科書も比較的、順調に発行された。これとは対照的に、「国史」は、神話を残した原稿を占領軍に提出し続けて拒否され、文部省とは別な執筆者を集めて『くにのあゆみ』などの日本史教科書の登場に至った。戦前の国史教育の崩壊を象徴する出来事である。外国史教育は東洋史・西洋史という枠組みから検討すべきであったが、戦時中に加えられた部分の削除と修正に留まったとも

言える。

新学制のもとでの新しい教科課程（教育課程）を検討する中で、新制高校の社会科学の選択科目として「東洋史」「西洋史」が導入された（他に「人文地理」「時事問題」）。決定過程に関わる具体的な史料は現存していないが、戦後に追求された在るべき東洋史研究、西洋史研究を基盤とした戦後に相応しい外国史教育が念頭に置かれたものと考えられる¹。上述した東洋史・西洋史という枠組みの検討はここでもなされなかった。

続いて、新たな社会科学東洋史・西洋史のために、学習指導要領と教科書の作成が行われた。学習指導要領は東洋史、西洋史のそれぞれで発行された²。学習指導要領では、社会科学としての外国史教育が模索されている。

新学制用の新しい教科書も東洋史、西洋史のそれぞれ2分冊で作成された。しかし、1947年8月に『西洋の歴史（1）』³が発行されたところで、カトリックからの批判が米国やマッカーサーを巻き込んで政治問題化したため、残りの『西洋の歴史（2）』、『東洋の歴史（1）』、『東洋の歴史（2）』の発行は停止された⁴。

1-2. 世界史教育の状況

1948年4月から新制高校が発足する。基本的には旧制中等学校がそのまま新制高校に移行したため、「東洋史」「西洋史」の授業が引き続き行われたと考えられる。1948年10月の通達により、高校社会科学の選択科目は「東洋史」「西洋史」が「国史（まもなく「日本史」に改称）」「世界史」に変更され、翌1949年4月からの実施が通知された⁵。これが「世界史」科目の始まりとなる。

新制中学にあって、新制高校にはなかった「国史（日本史）」を高校に入れるために、「東洋史」「西洋史」を併せて「世界史」としたと一般的に言われているが、「世界史」設置の経緯を示す史料も見出しえていないため、詳細は不明である⁶。ただし、科目としての十分な検討を経て、設置が決められたのではないことは間違いない⁷。

1949年4月の実施に当たっての文部省教科書局長名の通達では、「日本史」と「世界史」の授業に関わる留意点を指摘した後に、教科書について次のように述べている。

¹ 拙稿「戦後の新学制への外国史教育の導入—新制高校社会科学選択科目としての「東洋史」「西洋史」設置の意味—」（『社会科学教育研究』第99号、2006年12月）参照。

² 『学習指導要領東洋史編（試案）—昭和二十二年度—』（文部省、1947年7月）および『学習指導要領西洋史編（試案）—昭和二十二年度—』（文部省、1947年7月）。

³ 『西洋の歴史（1）』、著作及び発行：中等学校教科書株式会社、1947年8月3日「文部省検定済中等学校社会科用」、同日発行。

⁴ 『西洋の歴史』をめぐる問題は、西鋭夫『マッカーサーの『犯罪』 秘録日本占領』上巻（日本工業新聞社、1983年、44頁以下）および片上宗二『日本社会科学成立史研究』（風間書房、1993年）が詳しい。

⁵ 「新制高等学校教科課程の改正について」発学第448号、1948年10月11日。

⁶ この点については、稿を改めて検討したい。

⁷ 拙稿「成立過程における世界史教育の特殊性について」（『筑波社会科学研究』第6号、1987年）参照。

教科書として現在刊行されているのは、西洋の歴史（上）のみであるが他は教授者によつて適当に考慮されたい⁸。

ここにあげられている「西洋の歴史（上）」とは、『西洋の歴史（1）』のことを指す。上述したように、『西洋の歴史（1）』が1947年8月に発行された後には、東洋史・西洋史の正式な意味での教科書は発行されていなかった。しかも、発行されていたとはいえ、『西洋の歴史（1）』の増刷はなかった。教科書について、「他は教授者によつて適当に考慮されたい」と書く以外に、このときの占領軍や文部省では指示ができない状況であったと考えられる。東洋史・西洋史の教科書ですら揃えることができない中で、「世界史」の授業が始められた。

1947年の学習指導要領を改訂する1949年度以降の作業の中で、世界史の学習指導要領の作成も進められた。1950年度に委員を一部入れ替え、ある時期には原稿が完成していたようであるが、発行は1952年3月になった⁹。なお、この間の1950年9月に中間発表がなされている¹⁰。

「世界史」設置は検定教科書制度の導入が決定した後のことであったためか、文部省を著作権者とする世界史教科書を作成する動きは確認できていない。しかし、教科書が何も存在しない状況は文部省の責任問題であったと考えられる。1947年度の教科書目録以来、1951年度の教科書目録まで、外国史の教科書である『西洋の歴史』（1）（2）と『東洋の歴史』（1）（2）を、「世界史」実施後も文部省は掲載し続けていた（稿末の資料1参照）。実際に文部省では、『東洋の歴史』などの原稿を修正する作業を占領軍と協議しながら進めていたが、発行には至らなかった。

1-3. 検定教科書制度の始まりと「世界史」

検定教科書は1949年度使用開始のために1948年夏の展示会開催を目指して1948年6月に申請受理が始まった。検定に合格し展示会に間にあったものは申請総数の14.5%のみであった¹¹。この中に社会科はなく、また歴史教科書は受け付けられなかった。当初は、「国定」（文部省著作）と「検定」の2種の教科書の併用とされ、1949年度採択は発行部数の80.2%を「国定」（文部省著作）が占めた¹²。

⁸ 「高等学校社会科日本史、世界史の学習指導について」（発教第247号、1949年4月13日）上田薫ほか編集『社会科教育史資料』第1巻、東京法令、1974年、493頁。

⁹ 文部省『中学校・高等学校学習指導要領 社会科編Ⅲ(a)日本史(b)世界史（試案）－昭和26年（1951）改訂版－』明治図書、1952年3月。

¹⁰ 「高等学校社会科世界史の学習について」文初中第495号、1950年9月22日。なお、この通達に関しては、拙稿「文部省通達「高等学校社会科世界史の学習について」（1950年9月）の世界史教育史上の位置づけ」（『歴史教育史研究』第2号、2004年）参照。

¹¹ 徳武敏夫『日本の教科書づくり』みくに書房、1985年、38頁。

¹² 同前、39頁。なお、同書によれば、国定（文部省著作）教科書の割合は1950年度46.9%、1951

1950年度用の教科書目録¹³（1949年8月）で社会科教科書を見ると、小学校では文部省著作のもののみ、中学校では文部省著作のものに加えて4種の地図のみ検定教科書があり、高校の検定教科書は1種の人文地理のみであった。

1951年度用の教科書目録（1950年4月）になると、小学校で検定社会科教科書が増え、中学でも地図以外に検定教科書が散見されるようになるが、高校は前年度と同じである。

1952年度用の教科書目録（1951年6月）になると、小中高ともに多くの検定教科書が掲載されるようになった。初の世界史検定教科書も4種が記載されている。この時点でようやく『西洋の歴史』と『東洋の歴史』が消えた。

小中高の社会科から文部省著作教科書がすべてなくなるのは、1954年度用教科書目録（1953年5月）からである。

1952年度から始まった世界史検定教科書使用であるが、占領軍の資料には3種の英文の世界史教科書原稿が1950年中の日付で残されている¹⁴。1951年度使用に向けてのものと思われる。これ以外にも、公共図書館や大学図書館等に、1951年度使用を前提とした見本らしき世界史教科書が散見される。そのため、なぜ1952年度まで世界史等の検定教科書の使用が遅れたのかが逆に疑問となる。占領軍による教科書検定（検閲）が1950年8月に停止されている¹⁵ことが、何らかの形で関連していることは推測される。

その一方で、教科書検定基準に関しては、「世界史」実施直前の1949年3月に「世界史」の検定基準を追加していることが注目される¹⁶。ただし、1950年3月に文部省が発行した教科書に関する法令集には、不思議なことに、この追加が反映されていない¹⁷。

ともあれ、以上のように、1946年の暫定外国史教科書の発行から、1952年度用の検定世界史教科書の発行までの間に、厳密な意味での外国史あるいは世界史の教科書は1947年8月発行の『西洋の歴史（1）』のみであった。

新学制下の社会科教育に対して、文部省や占領軍は精力的な努力を傾けた。小学校から高校1年までの総合的な社会科の多数の教科書を用意した。変則的に設定された中学2～3年次の日本史には、本来は国民学校用であった『くにのあゆみ』を用いさ

年度19.0%、1952年度2.6%に下がっている。

¹³ 教科書目録の書誌データについては、稿末の資料1を参照されたい（教科書目録については以下同じ）。

¹⁴ GHQ/SCAP Records, CIE(A)04197-04221.中教、山川、実日の世界史教科書原稿であると現時点では推測している。

¹⁵ 水谷三郎『教科書懇話会の歴史—戦後の教科書事情—』教科書懇話会清算人、1961年、46～47頁。

¹⁶ 「教科用図書検定基準追加」文部省告示第20号、1949年3月22日。

¹⁷ 文部省調査普及局刊行課『昭和二十五年三月 教科用図書関係法令集』東洋館印刷所。なお、誤植が散見されることもあり、「世界史」の追加を入れていないのが意図的なのか否かは判断できない。

せ（新教科書作成も進められたが、発行できなかった¹⁸）、高校「日本史」には、本来は旧制中学校用であった『日本の歴史』の発行を続けた¹⁹。高校「人文地理」は1947年発行の教科書が継続使用され、「時事問題」は教科書を使わないものとされていた（1952年度からは「時事問題」の検定教科書も登場した）。文部省や占領軍としては、1949年4月の「世界史」実施にほとんど対応できていなかったことが指摘できる。

2. 「世界史」の準教科書の重要性と実態解明の困難

2-1. 「世界史」の準教科書の重要性

厳密な意味での教科書は1947年8月発行の『西洋の歴史（1）』のみであった中で、「世界史」授業のために多くの書物が発行された。これらの書物を、吉田寅氏は「世界史」成立期における「正式な教科書が無い状態を補った歴史用教材」として〈準教科書〉と位置づけた上で、その重要性を指摘した²⁰。吉田氏は準教科書と見なすべき理由を次の4点にまとめている。

- ①「世界史」は従来の「東洋史」・「西洋史」を、より発展的に展開すべき科目であり、内容も非常に広汎にわたるため、教科書もしくは、これに代わるものが必要な状況であった。
- ②これらの歴史用教材は、「世界史」の授業に出席する生徒全員が教室に持参することが各高校において定められており、教科書的に取り扱われていた。これらの書物が正式な教科書でないことを意識していた教師は、殆どいなかったものと推察される。
- ③執筆者および編集者は、これらの歴史用教材が、教育現場において「世界史」教育推進のために使用されることについて、十分に配慮していた。
- ④製本・印刷は教科書的な体裁で作成されたものが多かった²¹。

要するに、教科用図書としての法的な根拠を欠きつつも、高校「世界史」の教科書として作成され、教科書として使用されたものであった。本報告は吉田氏による定義と意義付けに依拠している。前項で述べた教科書の状況と吉田氏の指摘を考慮すると、成立期の「世界史」の授業を支えたのは、ここでいう準教科書であったことが分かる。

新科目「世界史」のための教科書は高校において強く求められたと考えられる。世界史とは何か、可能なのかの議論はともかく、授業をいかに進めるかを迫られた教師

¹⁸ 梅野正信『社会科歴史教科書成立史—占領期を中心に—』（日本図書センター、2004年）が詳しい。

¹⁹ 教科書目録では「補充教材」として1952年度用まで掲載されている。

²⁰ 吉田寅「『世界史』成立前後の教科書・準教科書について」『立正大学人文科学研究年報』第28号、1991年、10頁。

²¹ 同前。

にとって教科書は大変に重要であった。これに応じたのが、多くの歴史研究者であった。大学単位の研究会も多い。教員組合を母胎とした高校教師によるものも存在する。出版社にとっても謂わばビジネスチャンスであったと思われる。高校生が使う教科書以外でも世界史関係の書籍は、「世界史の氾濫」と揶揄されるほどに多くの発行がなされた²²。

準教科書は一般の図書であるため、出版には占領軍による検閲を経る必要はあったが、文部省の検定を受ける性格のものではなかった。この時期に、準教科書を舞台に具体的な「世界史」が模索されたものと思われる。

以上のように、「世界史」の初期を解明するためには、準教科書が不可欠なものとなる。

2-2. 「世界史」の準教科書に対する実態解明の困難

検定教科書の場合、採択に向けて年度ごとに教科書の一覧表が文部省によって作成されるのが基本であり、これが教科書研究にとって重要な資料となっている。しかし、準教科書にはそのようなものは全く存在しない。また、世界史と銘打っていても、教科書としての授業での使用が前提の準教科書であるとは限らない。特に受験用の参考書との区別は、不明確である。

また、教科書としての研究対象となっていないため、先行研究の蓄積に乏しい。同様に公的機関の収集の対象となっていない。さらに敗戦直後の出版事情の劣悪さを反映して、保存状態は非常に厳しく、現物の収集もままならない。しかも、発行状況以上に、使用状況の解明は極めて困難である。

このように、教科書研究の基本となる、何がいつ発行され、どのように使用されたのかという情報の完備は不可能に近い。文献目録、広告、諸文献での言及など当時の様々な資料をもとに一覧の作成を進め、現物を探して、手にとって確認する以外に方法はない。

また、1952年度に「世界史」の検定教科書が正式に使用されるようになるが、これ以前に検定申請されたもの（もしくは検定合格になったものか）が大学図書館等に散見される。一般的には、前年度の夏に行われた教科書展示会で展示された見本本（つまり教室で使われていない）と見なすべきであるが、「検定済のものと同じであります」と印刷されている場合もある。これらも準教科書の役割を果たしたものと考えられる。

3. 「世界史」の準教科書の特徴 —予備調査からの試論として—

稿末の資料2が、現時点で存在が確認できた「世界史」成立前後の時期の外国史や

²² 例えば、井上清「『世界史』の氾濫」（『歴史学研究』第144号、1950年3月）や有賀貞也「一時事と時評—世界史の氾濫」（『日本歴史』第27号、1950年8月）など。

世界史の教科書等の一覧である。ここには検定教科書や参考書をも採録してあるが、上述のようにその境界は曖昧であり、多くの準教科書が含まれているものと考えられる。すべてを把握できていない中で、「世界史」準教科書に対する考察をするのは甚だ心もとないため、試論として気づいたことを提示し、識者のご教示を賜りたい。

- ① 非常に多くの準教科書が多くの出版社から発行されていた。1952年度用検定教科書が5種（1953年度用が7種、1954年度用が10種）に絞られることを考慮すると、その何倍もの種類の準教科書が発行されていたが興味深い事実である。多くの準教科書が検定教科書になることなく、消えていくことになる。なお、検定申請をしたものもいくつか存在するようである。
- ② 内容的にもその後の検定教科書と比べて、多種多様である。目立つのは東洋史編と西洋史編を分けて2分冊にしたものである。2人で分けて授業を担当したという回想もあり、東洋史学者・西洋史学者の分担執筆という面からも、ある意味で現実的な編集でもあった。また、西洋史にわずかばかりの東洋史を挿入した世界史なども存在した（今井登志喜監修『世界史概観』日本出版協同、1949年）。ただし、多くは東洋史と西洋史の内容を、西洋史の時代区分に合わせて適宜に配置した世界史であった。
- ③ 執筆者も多様である。ただし、当然ながら中心は東洋史学者と西洋史学者である。特に尾鍋輝彦、山崎宏、有高巖、内藤智秀は多くのものを執筆している。中でも尾鍋輝彦は際立った活躍をしている。また、大学名を冠した研究会等を正面に題しているものが目立つ。戦前の検定外国史教科書にはなかったものであり、その後の戦後の検定世界史教科書でもあまり見られなくなる。採択の範囲や内容記述に大学の地域性があると興味深いのが確認できていない。組合を母体とした高校教師による世界史（日本教職員組合近畿協議会高等学校教科書編纂委員会『新考世界史』教育タイムス社、1950年）やカトリックの立場からの世界史（上智大学内教育協議会編『世界史西洋史篇』エンデルレ書店、1949年）も見られる。個人名が正面に出ないことは、学界の権威が歴史教科書を書くという戦前までの通例を破ったものともみなされる。ただし、検定教科書になると旧に復した感がある。
- ④ 準教科書にも発展がある。出版事情の好転はそのまま準教科書の体裁や挿絵等の充実につながっているため、初期の「世界史」を支えた準教科書も初期のものと同後期のものとは差が激しい。ただし、改訂版を出し続けられたものはごく少数である。

以上の試論は、準教科書の収集と精査を待つて完成していきたい。なお、検定教科

書の母体となって、その後継続した準教科書と、この時期のみで消えていった準教科書が存在するが、全体として、これらの準教科書の存在は、「世界史」とは何かを模索した現象と捉えられよう。

おわりに

本報告の内容は、まだ着手したばかりのものである。その概略をも示しえておらず、課題は多い。

一方で、何もかもが混然としてはっきりしない時期であるが故の可能性も感じ取ることができる。学習指導要領も検定教科書もなく、依拠すべき研究も乏しい中での「世界史」の何物にも掣肘されない力強さがここにはある。

実態解明のためにも、博雅のご示教をお待ち申し上げる次第である。

資料 1：教科書目録に見る外国史・世界史教科書一覧（1947～1954 年度）

凡例

- ・表記は原文のままでない部分がある。記載情報もすべてではない。
- ・〔 〕は茨木によるものである。
- ・発行者の正式名称は、初出のみ注記した。
- ・1947 年度用から 1951 年度用までは、実態と異なる部分がある（本文参照）。

○1947 年度用

（『昭和二十二年四月 昭和二十二年度使用中等学校教科用図書目録』、文部省、1947 年 4 月）

「社会」「第一、二、三学年（選択使用）」

東洋の歴史、著者：中教、発行者：中教、備考：「(1) (2) (3) 三分冊」

西洋の歴史、著者：中教、発行者：中教、備考：「(1) (2) (3) 三分冊」

〔「中教」は中等学校教科書株式会社。備考に「三分冊」と記載されているが、後に 2 分冊となる。〕

○1948 年度用

（『昭和二十三年四月 昭和二十三年度使用高等学校教科用図書目録』、文部省、1948 年 4 月）

「社会」「第二、三学年（選択使用）」

東洋の歴史一、著者：中教、発行者：中教、備考：「概説・古代・中世前期」

東洋の歴史二、著者：中教、発行者：中教、備考：「中世後期、近世現代」

西洋の歴史一、著者：中教、発行者：中教、備考：「古代、中世、近世前期」

西洋の歴史二、著者：中教、発行者：中教、備考：「近世後期、現代」

○1949年度用

〔『昭和二十四年度使用 高等学校教科書目録 その一』、文部省、年月日欠〕

「社会」

東洋の歴史（一）、著者：中教、発行者：中教、「高2. 3」「選択使用」△

東洋の歴史（二）、著者：中教、発行者：中教、「高2. 3」「選択使用」△

西洋の歴史（一）、著者：中教、発行者：中教、「高2. 3」「選択使用」

西洋の歴史（二）、著者：中教、発行者：中教、「高2. 3」「選択使用」△

〔△は「新編さん、昭和23年度中に発行予定であるが未許可のものである。」〕

○1950年度用

〔『昭和二十四年八月 昭和二十五年度使用 高等学校普通学科用教科書目録』、文部省、1949年8月〕

「社会」

〔記載は発行者番号・発行者略称、教科書番号、教科書名、ページ数、著作者名の順〕

5 中教、高社 1102、東洋の歴史一、※128頁、中教

5 中教、高社 1103、東洋の歴史二、※128頁、中教

5 中教、高社 1104、西洋の歴史一、168頁、中教

5 中教、高社 1105、西洋の歴史二、※152頁、中教

〔※は「予定頁数」である。〕

○1951年度用

〔『昭和26年度使用 教科書目録 高等学校普通学科用』、文部省、1950年4月、MEJ8012〕

「社会（2-3年用）」

〔記載は発行者番号・発行者略称、教科書番号、教科書名、ページ数、著作者名の順〕

5 中教、高社 1102、東洋の歴史1、128頁、中教

5 中教、高社 1103、東洋の歴史2、128頁、中教

5 中教、高社 1104、西洋の歴史1、168頁、中教

5 中教、高社 1105、西洋の歴史2、152頁、中教

〔「中教」はこれ以後、中教出版株式会社〕

○1952年度用 【5社5種8冊】

〔『昭和27年度使用 教科書目録 高等学校用』文部省、1951年5月、MEJ8073〕

〔(世界史) 2・3年用〕

〔記載は発行者番号略称、教科書記号番号、教科書名、ページ数、著作者名、備考の順〕

37 好学、高社 1108、高等世界史、414 頁、大類伸・吉岡力、△ 〔好学社〕

8 実日、高社 1111、現代世界のなりたち 上、246 頁、中屋健一・尾鍋輝彦 〔実業之日本社〕

8 実日、高社 1112、現代世界のなりたち 下、170 頁、中屋健一・尾鍋輝彦

5 中教、高社 1113、世界史 上、244 頁、三上次男ほか 1 名

5 中教、高社 1114、世界史 下、168 頁、三上次男ほか 1 名

81 山川、高社 1118、改訂版 世界史、※368 頁、村川堅太郎・江上波夫・東京大学文学部内史学会、△ 〔山川出版社〕

93 大教、高社 1123、高校世界史 上、※230 頁、井上智勇・田村実造・豊田武、△ 〔大阪教育図書〕

93 大教、高社 1124、高校世界史 下、※212 頁、井上智勇・田村実造・豊田武、△

〔※は「予定ページ数」であり、△は「4月30日までに原稿審査または校正刷審査まで合格したもの」である。〕

○1953年度 【7社7種10冊】

〔『昭和28年度使用 教科書目録 高等学校用』文部省、1952年5月、MEJ8108〕

〔社会科(世界史) 2~3年用〕

〔記載は発行者番号略称、教科書記号番号、教科書名、ページ数、著作者名、備考の順〕

8 実日、高社 1111、現代世界のなりたち 上、250 頁、中屋健一・尾鍋輝彦

8 実日、高社 1112、現代世界のなりたち 下、172 頁、中屋健一・尾鍋輝彦

5 中教、高社 1113、世界史 上、244 頁、三上次男ほか 1 名

5 中教、高社 1114、世界史 下、168 頁、三上次男ほか 1 名

81 山川、高社 1133、再訂 世界史、368 頁、村川堅太郎・江上波夫・林健太郎・東大文学部内史学会、改

37 好学、高社 1135、高等世界史、420 頁、大類伸・吉岡力、改

104 数研、高社 1142、新しい世界史、360 頁、宮崎市定・村田数之亮、新 〔数学研究社〕

23 修文館、高社 1143、世界史読本 全、280 頁、高山一十・松崎寿和、新 〔株式会

社修文館]

93 大教、高社 1144、改訂 高校世界史 上巻、280 頁、井上智勇・田村実造・豊田武、改

93 大教、高社 1145、改訂 高校世界史 下巻、210 頁、井上智勇・田村実造・豊田武、改

〔「新」は「昭和 27 年度使用教科書目録にはなくて本目録に記載されたもの」であり、「改」は「前年までのものにくらべて内容または形式が改まったもの」である。〕

○1954 年度用 【10 社 10 種 12 冊】

〔『昭和 29 年度使用 教科書目録 高等学校用』文部省、1953 年 5 月、MEJ8169〕

「社会科（世界史）」

〔記載は発行者番号略称、教科書記号番号、教科書名、ページ数、著作者名、備考の順〕

8 実日、高社 1111、現代世界のなりたち 上、250 頁、中屋健一・尾鍋輝彦

8 実日、高社 1112、現代世界のなりたち 下、172 頁、中屋健一・尾鍋輝彦

37 好学、高社 1135、高等世界史、420 頁、大類伸・吉岡力

104 数研、高社 1142、新しい世界史、360 頁、宮崎市定・村田数之亮

23 修文館、高社 1143、世界史読本 全、280 頁、高山一十・松崎寿和

93 大教、高社 1144、改訂高校世界史 上巻、206 頁、井上智勇・田村実造・豊田武、改

93 大教、高社 1145、改訂高校世界史 下巻、210 頁、井上智勇・田村実造・豊田武、改

109 文英堂、高社 1149、最新世界史、386 頁、安部健夫・宇都宮清吉・豊田堯・中山治一・羽田明・村田数之亮、新 〔株式会社文英堂〕

81 山川、高社 1151、三訂 世界史、364 頁、東京大学文学部内史学会・村川堅太郎・江上波夫・林健太郎、改

5 中教、高社 1155、世界史 改訂版、462 頁、三上次男ほか 2 名、新

35 清水、高社 1156、世界史、356 頁、山崎宏、新 〔株式会社清水書院〕

57 書院、高社 1158、世界史、426 頁、和田清・山中謙二、新 〔株式会社日本書院〕

〔「新」は「昭和 29 年度以降使用教科書として新たに著作編修されたもの、および前年度までのものに 4 分の 1 以上の改訂を加えたものであること」を示し、「改」は「前年度までのものに 4 分の 1 以内の改訂を施したものであること」を示す。〕

資料 2 : 「世界史」成立前後の外国史・世界史教科書等一覧 (稿)

凡例

- ・「世界史」成立前後における外国史および世界史に関わる新制高等学校 (旧制中等学校) 生徒用の準教科書・検定教科書、参考書そして教師用の図書を対象とした。
- ・一般書、年表、辞典、入試問題解説書は除外した。
- ・確認できた図書の現物だけでなく、公共図書館・大学図書館・プランゲ文庫・古書販売等の目録や当時の言及や広告等からも採録した。そのため、現物を確認できていないものも多い。
- ・出版社ごとにまとめ、五十音順に並べた。
- ・『書名』、編著者名、(検定年月日)、発行年月日、(備考) の順に記載した。

(記載対象図書の性格上、採録できたものはごく一部であると考えられる。ご指摘を受けながら調査を継続し、充実を図りたい。)

池田書店 (東京)

『最新世界史研究 古代』、有高巖、1950 年発行。

『世界史』、有高巖・内藤智秀、1952 年発行。

エンデルレ書店 (東京)

『世界史 西洋史篇』上巻、上智大学内教育協議会編 (代表・小沢謙二)、1949 年 4 月 15 日発行。

『世界史 西洋史篇』下巻、上智大学内教育協議会編 (代表・小沢謙二)、1949 年 10 月 30 日発行。

桜菊書院 (東京)

『西洋古代史』、内藤智秀、1948 年発行、(学生シリーズ、社会科西洋史篇)。

『東洋古代史』、有高巖、1948 年発行、(学生シリーズ、社会科東洋史篇)。

旺文社 (東京)

『世界史の研究』、吉岡力、1949 年 7 月 10 日初版発行、[参考書]。

『世界史の研究』、吉岡力、1952 年 1 月 5 日重版発行 (1950 年 6 月 10 日改訂版)、[参考書]。

『要約世界史』、松崎功、1955 年発行。

大阪教育図書 (大阪)

『新制高校 西洋史』、井上智勇、1949 年 3 月 25 日 3 版発行 (1948 年 7 月 25 日初版、1949 年 2 月 20 日再版)。

『高校世界史』上・下、井上智勇・田村実造・豊田武、1950 年発行。

『高校世界史』上・下、井上智勇・田村実造・豊田武、発行年月日等欠、[「高社 1123」・「高社 1124」の記載]。

『改訂高校世界史』上巻・下巻、井上智勇・田村実造・豊田武共著、(検定年月日空欄)、

1952年 月 日発行（空欄）。

学修社（大阪）

『学修受験東洋歴史』、清田之長、1947年発行。

『学修受験西洋歴史』（3冊）、大鏑昭、1948～1949年発行。

革新社奨学部（東京）

『重点西洋史』、革新社編集部編、1946年発行、〔「受験必携」〕。

風間書房（東京）

『参考世界史（第1）西洋文化史篇』、高橋武勇、1950年発行。

金子書房（東京）

『最新世界史研究』、山崎宏、1954年発行。

川田書房（東京）

『新東洋史地図』、榎一雄・鎌田重雄共編、1948年9月25日発行。

紀元社（東京）

『新制世界歴史図帳—地図と絵で知る世界史』、歴史教育調査会、1950年発行。

吉備高等学校出版部（岡山）

『世界史要説』、鎌木繁太、1949年発行。

教育タイムス社出版部（大阪）

『新考世界史』上巻、日本教職員組合近畿協議会高等学校教科書編纂委員会編、執筆責任・原随園、1950年2月25日発行。

『新考世界史』下巻、日本教職員組合近畿協議会高等学校教科書編纂委員会編、執筆責任・原随園、1950年4月25日発行。

『新考世界史 普及版』、日本教職員組合近畿協議会高等学校教科書編纂委員会編、1951年発行。

教学研究社（大阪）

『最も理解し易い西洋歴史学習書』、山上徳信、1947年発行。

『最も理解し易い東洋歴史学習書：新制高等学校用』、山上徳信、1948年発行。

錦橋塾（東京）

『学生の西洋歴史』、延原政行、1947年発行。

金星堂（東京）

『新総合世界史』上巻、山崎宏責任編集、東京文理科大学世界史研究会編、1950年2月15日発行。

『新総合世界史』中巻、山崎宏責任編集、東京文理科大学世界史研究会編、1950年6月15日発行。

『新総合世界史』上巻、山崎宏責任編集、東京文理科大学世界史研究会編、1952年9月25日発行。

『新総合世界史』中巻、山崎宏責任編集、東京文理科大学世界史研究会編、1952年9月25日発行。

『新総合世界史』下巻、山崎宏責任編集、東京文理科大学世界史研究会編、1952年9

月 25 日発行。

『新しい世界史』、東京文理科大学世界史研究会編（著作代表者・山崎宏）、1950 年 9 月 25 日発行。

研数書院（東京）

『最新学生の西洋歴史』、朝日融溪、1947 年発行。

好学社（東京）

『高等世界史』大類伸編（大類伸監修、吉岡力他編）、1951 年 月 日検定（空欄）、1951 年 月 日発行（空欄）。

『高等世界史』大類伸編（大類伸監修、吉岡力他編）、1951 年 7 月 23 日検定、1951 年 11 月 29 日発行。

『高等世界史』大類伸編（大類伸監修、吉岡力他編）、1952 年 7 月 30 日検定、1952 年 12 月 5 日発行。

古今書院（東京）

『新世界史入門』、古今書院編集部編、1950 年 12 月 20 日初版発行。

三省堂出版（東京）

『高等学校世界史』1、尾鍋輝彦、1950 年 4 月 20 日発行。

『高等学校世界史』2、尾鍋輝彦、1950 年 7 月 5 日発行。

『高等学校世界史』3、尾鍋輝彦、1950 年 11 月 10 日発行。

実業之日本社

『現代世界のなりたち』上・下、中屋健一・尾鍋輝彦、1951 年 月 日検定（空欄）、発行年月日空欄。

『現代世界のなりたち』上・下、中屋健一・尾鍋輝彦、1951 年 7 月 23 日検定、発行年月日空欄。

『現代世界のなりたち』上・下、中屋健一・尾鍋輝彦、1951 年 7 月 23 日検定、1954 年 1 月 10 日発行。

『現代世界のなりたち 学習指導書』、中屋健一・尾鍋輝彦、1952 年 3 月 25 日発行。

清水書院（東京）

『最新学生の東洋歴史』、清水書院編集部編、1946 年 12 月 20 日発行。

『新制学生の東洋歴史』、清水書院編集部編、1948 年新訂版発行、（改訂増補版）。

『最新学生の西洋歴史』、清水書院編集部編、1947 年 5 月 20 日発行。

『最新学生の西洋歴史』、清水書院編集部編、1947 年改訂版発行。

『学生の世界史』、平田孝次、1950 年発行。

『学生の世界史』、直江広治、1955 年発行。

『世界史』、山崎宏、1953 年 9 月 5 日検定、1954 年 6 月 20 日再版発行（1953 年 11 月 30 日発行）。

社会科教育研究社（東京）

『世界史の要領』、有高巖・内藤智秀、1949 年 7 月 1 日発行。

昇龍堂（東京）

- 『新制西洋史』、浅海正三、1948年発行。
『東洋史』、浅海正三、1949年2月3版発行。
『新制東洋史』、浅海正三、1949年11月4版発行。
『詳解世界史』、木村正雄、1951年6月発行。
『簡約世界史』、木村正雄、1951年6月発行。

城北書店（岐阜）

- 『新編西洋歴史解説』、加藤暁明、1946年発行。

新教育事業協会（中教出版株式会社内）（東京）

- 『100ページの世界史』、尾鍋輝彦、1950年5月5日第21版発行（1949年12月20日第1版発行）。

駸々堂（大阪）

- 『学習参考新制東洋史』、市村其三郎、1947年発行。
『新制高校新撰世界史、近世篇』、歴史学協会編、1949年発行。
『教科参考新撰世界史』、歴史学協会編、1949年発行。
『図説表解世界史：単元学習』、中村信二、1950年発行。

数学研究社（京都・東京）

- 『高等学校新しい世界史』、京都大学世界史研究会編（著作代表・宮崎市定）、1952年8月30日検定、1953年6月10日発行。
『新しい世界史－資料編－』、京都大学世界史研究会編、1953年6月20日、〔非売品：教師用〕

世界社（東京）

- 『世界史』、九州大学世界史研究会編、1950年3月31日発行。

創元社（東京）

- 『世界史備要』、前川貞次郎、1952年発行。

大地書房（東京）

- 『世界史読本』上巻、文部省内世界史研究会編、1949年6月10日発行。
『世界史読本』下巻、文部省内世界史研究会編、1949年10月30日発行。

中教出版社（東京）

- 『西洋の歴史（1）』中等学校教科書株式会社（著作兼発行者）、1947年8月3日検定、同日発行。
『世界史 東洋史編（学生版）』三上次男、1949年発行。
『世界史 東洋史編（学生版）』三上次男、1950年4月25日発行。
『世界史 西洋史編（学生版）』板倉勝正著・今井登志喜監修、1949年発行。
『世界史 西洋史編（学生版）』板倉勝正著・今井登志喜監修、1950年4月25日発行。
『世界史』上巻・下巻、三上次男・尾鍋輝彦共著、1950年12月25日発行。
『世界史』上巻・下巻、三上次男・尾鍋輝彦共著、1951年 月 日検定（空欄）、1951年6月15日発行。

『世界史』上巻・下巻、三上次男・尾鍋輝彦共著、1951年7月23日検定、1952年3月5日発行。

『世界史—学習指導の実際—』、発行年月日等欠、〔1952年6月の挨拶文〕。

『世界史 改訂版』三上次男・尾鍋輝彦・秀村欣二、1953年 月 日検定（空欄）、1953年6月20日発行。

『世界史 改訂版』三上次男・尾鍋輝彦・秀村欣二、1953年8月20日検定、1955年2月25日再版発行（1954年2月20日発行）。

千代田書房（東京）

『世界史概説』、大野真弓・影山剛、1952年発行。

東京修文館（東京）

『世界史読本 全』、高山一十・松崎寿和、検定年月日空欄、1952年6月15日発行。

日英社（東京）

『新東洋史、古代・中世篇』、有高巖編著、1949年発行。

『最新世界史』、内藤智秀、1949年発行。

日本出版協同株式会社（東京）

『世界史概説』上巻、今井登志喜監修、1949年8月25日6版発行（1949年4月5日）。

『世界史概説』下巻、今井登志喜監修、1949年8月25日6版発行（1949年4月15日）。

日本書院

『世界史』、和田清・山中謙二、〔1954年度用検定教科書〕。

日本尚学会尚学社（東京）

『くわしい新歴史：全（日本史、東洋史、西洋史）』、小山敬吾（編集発行）、1948年発行。

馬場書店（京都）

『社会科の世界史』、世界史学会編、1949年発行。

富士書房（東京）

『新修世界史』、内藤智秀、1949年6月25日発行。

文英堂（京都）

『世界史からみた新東洋史』、田村実造、1950年発行。

『要訣世界史』、会田雄次〔他8名〕共著、1951年11月25日発行。

『高等学校最新世界史』、安部健夫・宇都宮清吉・豊田堯・中山治一・羽田明・村田数之亮、1953年 月 日検定（空欄）、1953年6月10日発行。

平安文庫（京都）

『新制世界史』第1分冊、世界史研究会（代表・藤枝晃）編、1949年5月1日発行。

『新制世界史』第2分冊、世界史研究会（代表・藤枝晃）編、1949年5月25日発行。

『新制世界史』第3分冊、世界史研究会（代表・藤枝晃）編、1949年6月15日発行。

『新制世界史』第4分冊、世界史研究会（代表・藤枝晃）編、1949年6月20日発行。

『新制世界史 教授資料』第1分冊、世界史研究会（代表・藤枝晃）編、1949年5月10日発行。

『新制世界史 教授資料』第2分冊、世界史研究会（代表・藤枝晃）編、1949年9月30日発行。

『新制世界史 学び方と問題』、世界史研究会（代表・藤枝晃）編、1949年10月25日発行。

『新制世界史』上巻、京大人文学部研究所内世界史研究会（代表・藤枝晃）編、1950年4月10日発行。

『新制世界史』下巻、京大人文学部研究所内世界史研究会（代表・藤枝晃）編。

法文社（東京）

『最新西洋史』、太田広、1947年発行。

『最新世界史』太田広、1951年発行。

星野書店（京都）

『易しく新しい西洋通史』、江坂長四郎、1948年発行。

堀書店（大阪）

『世界の歴史：年表と時代概観』、栗原黄三郎、1949年発行。

八重山書店（東京）

『西洋歴史絵図』、尾鍋輝彦、1948年発行。

柳原書店（京都）

『世界史研究』上巻、広島史学研究会編（責任編集 杉本直治郎・千代田謙・上野実義）、1950年6月20日4版発行（1950年3月5日）。

『世界史研究』下巻、広島史学研究会編（責任編集 杉本直治郎・千代田謙・上野実義）、1950年11月10日再版発行（1950年8月25日）。

『新講世界史』、井上智勇編、1952年11月発行。

山川出版社（東京）

『東洋の歴史 第一部 中国の歴史』、東京大学東洋史学会編、1949年5月25日3版発行（1948年12月10日初版、1949年2月10日再版）。

『世界史概観』、東京大学文学部史学会編（村川堅太郎・山本達郎・林健太郎）、1949年6月1日3版発行（1949年4月15日初版、1949年5月10日2版）。

『改訂版 世界史概観』、東京大学文学部史学会編（村川堅太郎・山本達郎・林健太郎・榎一雄）、1950年5月20日6刷発行（1950年4月10日1刷）。

『世界史』、村川堅太郎・江上波夫著・東京大学文学部内史学会編、1951年1月1日発行、「[検定済のものと全く同じであります]」の記載。

『改訂版 世界史』、村川堅太郎・江上波夫・林健太郎著・東京大学文学部内史学会編、1951年6月11日発行、「[検定済のものと全く同じであります]」の記載。

『改訂版 世界史』、村川堅太郎・江上波夫・林健太郎著・東京大学文学部内史学会編、1951年7月16日再版発行（1951年6月15日初版）、「[検定済のものと全く同じであります]」の記載。

『再訂 世界史』、村川堅太郎・江上波夫・林健太郎著・東京大学文学部内史学会編、〔検
定年月日空欄〕、1952年6月14日発行、〔「昭和28年度用展示会見本」の記載〕。

『三訂 世界史』、村川堅太郎・江上波夫・林健太郎著・東京大学文学部内史学会編、
1952年7月30日検定・1953年8月5日改訂検定済、1954年3月5日発行。

有精社（東京）

『新稿世界史<アジア篇>』、木村正雄、1950年発行。

『新稿世界史<ヨーロッパ・アメリカ篇>』、矢田俊隆、1951年発行。

吉川弘文館（東京）

『世界歴史地図』、亀井高孝・三上次男・児玉幸多共編、1950年2月11日発行。

隆文堂（東京）

『要解西洋歴史：全』、松谷正治、1947年発行。

隆文堂大阪店（大阪）

『精粹世界歴史：全』、松谷正次、1947年発行。

黎元社（大阪）

『新考世界史』、史学教育研究会編（原随園監修）、1953年9月発行。

若竹書房（大阪）

『解説西洋の歴史』、高木隆、1949年発行。

正誤表

茨木智志「初期世界史教科書考」『歴史教育史研究』第6号（2008年度）

| 頁・行 | 誤 | 正 |
|----------|-----|-----|
| 4頁 8行目 | 4種 | 5種 |
| 14頁 7行目 | 大岡力 | 吉岡力 |
| 14頁 9行目 | 大岡力 | 吉岡力 |
| 14頁 11行目 | 大岡力 | 吉岡力 |